

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2893000154		
法人名	医療法人社団 輝正会		
事業所名	グループホーム はたなか		
所在地	尼崎市大庄西町1丁目10-15		
自己評価作成日	平成24年 3月16日	評価結果市町村受理日	平成 25年 7月 11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hyogo-kai.go.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成 25年 4月 27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人母体及び連携医療機関である畠中整形外科・リハビリテーション科において、医療管理の体制やリハビリテーションの充実により入居利用の方の健康維持や促進に努めることができています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1階が母体医療法人併設の医療機関、2階はデイケアサービス、3階がグループホームである。母体法人は長年地域医療に貢献してきた経緯があり、認知症の人の支援、支える家族の支援の必要性を実感し、継続して携わっている。認知症があっても、普通の生活を送ることで進行を抑え、その人の生活スタイルの継続を図っている。季節感ある食材を活かした手作りメニュー、自由なびのびした雰囲気、そして何より安心できる体調管理等、医療面での全面的なバックアップ体制が整備されている。昨今の利用者の重度化や終末期の支援体制にも、職員の細やかな連携により自然な形で取組んでいる。今後は、地域医療のさらなる推進という観点からも、これまでの実績やノウハウを積極的に地域に発信し、医療と福祉の連携に向けた啓発にも取り組まれてはどうだろうか。そのためにも地域との協働を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の必ず目に入る場所へ張り出している	利用者十分に話しをし、思いを汲み取り、受け留め、その人に沿ったケアを重視している。そのために利用者との人間関係を大事にし、安心できる環境づくりを目指している。掲示により視覚から捉えるとともに、会議等で具体的な個々の対応について、職員間で周知するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議にも参加して頂き、地域の催しには出来るだけ参加している。デイケアに保育園児がくる時には、一緒に参加することもある	近隣の神社の夏祭りや地域の行事には積極的に参加している。トライやるウイークでの中学生との交流や併設サービスでの子ども来訪の際は、利用者も参加し、楽しみとなっている。近隣の散歩時に、地元の人と挨拶を交わすこともある。夏には事業所主催の盆踊りを企画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において町会の代表の方との話し合いも行い、事業所において出来ることを題材にお話している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組み等の報告を行い、会議で出た意見を取り入れ、ケアや地域との交流に活かしている	自治会長、家族及び利用者代表、市職員等がメンバー。事業所は各委員会、ヒヤリハット、入居者の医療に関する受診情報を毎回報告している。自治会長からの情報提供を受け、地域との共同や虐待について話しをしている。「はたなかだより」で利用者の様子を写真で紹介している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業に関する事でわからないところは常に相談をしている	グループホーム連絡会を通じて市職員との情報交換や事業所の現状について、相談している。事例発表会や討論会も開催され、活発な意見交換となっている。必要に応じて個別に、相談もしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止について、意識付ける為カンファレンス等でもスタッフへ話しをし取り組んでいる	原則、拘束はしない方針としている。職員は会議等で事例を交えながら理解を深め、意識の統一に努めている。エレベーターは操作が必要であるが、各階の移動は自由にできる。職員は日々、外気浴の機会を設けるように努めるとともに、連携して利用者の見守りに努めている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	運営規定や重要事項にも取り入れ、カンファレンス等で話している	マニュアルを整備し、事例等も取り上げながら職員への周知に努めている。会議の際にも、一人ひとりのケアに関連づけて共有を図っている。職員間での連携を重視し、相互で注意し合える関係づくりに心がけている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の勉強会でも研修を行い、職員が学ぶ場がある	職員は2か月に1回、法人合同の研修会により学んでいる。資料等も整備し、必要に応じて説明、情報提供を行っている。家族にも家族会内で、説明する機会を持った。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず行き、家族の意向をお聞きするようにしている	事前に契約関連書類等を渡し、内容を理解してもらい不明な点があれば説明し、家族の納得のいく契約に努めている。職員が訪問し、本人や家族の意向を確認し、反映できるようにもしている。見学は随時受け付け、利用者が雰囲気馴染んでもらうよう努めている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情相談の窓口も設け、常に話を聞く体制を取っている	年3回、定期的に行事と並行して家族会を開催している。事業所の報告事項について、家族から質問や感想等が出される。その中で防災訓練についての意見が出された。普段の来訪時には別途時間を取って話しをしたり、電話でも相談を受けている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者はホームにたびたび赴き、ホームの様子観察などを行い、また管理者はカンファレンスなどの話し合いの機会を持っている	毎月の会議やミーティングで、職員からの意見や提案を積極的に受けているが、ケアに関することが多く、運営までの意見等は無い。代表者の事業所への行き来も多く、利用者の様子等、状況把握を行っており、常に管理者とは連携を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標コミュニケーションシートを行い、向上心を持って勤務を行うように勤めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	その時々で必要と思われる研修・勉強会の参加を促すようにしている。また、法人における勉強会が2ヶ月に1度行われ、参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者連絡会に参加し、連絡会主催の討論会、勉強会、交流会に参加し交流を深め、サービス向上に役立っている		

自己	者 第	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の生活の中で出てきた不安や困っていることには、よく話を聞くようにしている。また解決できることは、その状況に合わせて解決に導くよう働きかけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前の相談から入居に至るまでに数回かけ聞くことができ、多少なりとも関係作りが出来ていると考える		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居利用相談時に、内容によっては他のサービス等の紹介なども考慮に入れ、お話をさせていただいている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当事業所開設以来、常にその考えを持ち、支えあう関係作りを築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との関係を行事などを通し協力を仰ぎ、一緒に入居利用者の方を支えて行く関係を築いている		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの関係に関してはお聞きしたり、その方が訪ねて来たりとされるが、なじみの場所に関しては対処できていないところがある。ご本人、ご家族様にお話を聞いていければと思っている	友人や知人の来訪により、話しをしたり食事に行くこともあり、囲碁の好きな人へのボランティア訪問もあり、一緒に楽しんでいる。定期的な家族の来訪も多く、一緒に外出したり、自宅に帰ることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常にリビングの状況を観察し、その時の状況や状態により関わりを考え、その様に努めている		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまで、そこまでの入居利用者の方がおられず行われていなかったが、今後そのような方が現れた時は必要に応じ、関わっていきたいと考えている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントツールにセンター方式を用い、入居利用者本位に対応できるように努めている	これまでの生活歴や好きなことなど、家族の情報を基に集約している。日々の関わりを通じて利用者との信頼関係を深めることで、本人の理解を深めている。困難な人は普段の観察に注意し、表情の変化やしぐさ等から思いを推し量るようにもしている。情報は記録し職員間で確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントツールにセンター方式を用い、入居利用者本位に対応できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌・個人記録を時間ごとで区切り、その方の一日を把握できるように努めている		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	専門的な意見も取り入れることを行い、ご家族様とも話し合っている	職員は担当制で、利用者のベースとなる生活スタイルを参考に、その人のその日の過ごし方を把握している。それを基に状態変化を見極め、医療関係者や家族の意見を参考に、計画原案を作成している。3か月ごとのモニタリングで、基本6か月ごとに計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしを個人記録として毎日記帳し、その方の情報源の一つとして様々の事柄に活かすようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化とまでは行かないが連携医療機関でのリハビリテーションやボランティアによる活動などを取り入れている		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要性に応じ、ボランティア、地域の警察、消防署の協力を得て支援している		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人が医療法人であり、内科医の診察も行われほとんどの方が主治医としており、必要な時には適切に診察を受け支援させている	ほとんどの利用者が納得して、法人の内科医を主治医としている。2週間に一回往診があり、事業所の看護師とも連携して、体調管理がなされている。早期治療につなげることもでき、利用者の負担軽減が図られている。必要に応じて、歯科、泌尿器科、薬剤師の訪問も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護職を一人配置し、常に医療面でのケアや相談を行えるようにしている		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	職員看護職を入居利用者が入院、長期治療などが必要となった時、連携医療機関との情報交換などの話し合いを行うようにしている	主治医の判断で、入院先の紹介がある。事業所は介護サマリーを速やかに提供し、家族と相談しながら、早期退院に向け、医療機関と連携を図っている。法人の病院と入院先との連携も取れ、退院に向けた受入れ体制も整備されている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	開設当初より看取りの意識を持ち、終末期ケアに関しては常に話しており、連携医療機関のドクターやグループホーム職員の看護師、介護職員は連携を常に意識し、備えている	入居契約時に、まず看取りについて、希望を聞き取っている。状態変化に伴い、主治医からの指示で、家族と話し合いを重ねている。利用者には、職員が普段の会話の中で思いを確認している。現在までに2名看取っている。医師、看護師の協力により、職員も安心感が得られている。看護師が看取りケアの勉強会も行っている。家族も泊って最期を看取ることもできる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連携医療機関のドクターと話したり、マニュアルの整備・研修と実践力をつけるようにしている		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域消防署や消防団とも連携し、法人で行なう緊急の避難の訓練を年に1回、事業所独自の訓練も1回行って非常時に対応できるよう訓練している	年2回、避難訓練を行っている。夜間想定で訓練で、階下からの出火を想定してベランダへ逃げたが職員一人に対応するのは難しかった。近隣に住んでいる職員の応援を求めると、近隣の住民への協力は要請していない。備蓄は、整っており、家族会で非常食の試食会もしている。	運営推進会議の議題として出席者と意見交換し、協力のもと近隣との関係作りを進めていかれてはいいか。

自己	者 第	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の書面を張り出し、職員に対しては常に話をしており、書面でも誓約書をとって、対応には気をつけている	理念に基づいて、自分がされて嫌なことはしないで、「思いやり」、「やさしさ」で利用者に接している。同性介助や失禁等への対応もさりげなく行い、羞恥心への配慮を大事にしている。利用者への声かけは丁寧語を基本としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居利用者様に接する時には常には行っており、アセスメントツールのセンター方式においても利用者様の気持ち等を考えている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に入居利用者主体のケアを考え、その支援に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時のオシャレ、化粧などの支援や理容・美容は本人の希望を出来るだけかなえられるよう支援している		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その入居利用者様の精神・身体レベルに合わせた、食事に関する手伝いの支援を行っている。また、食べたい物や季節の物も取り入れている	ユニット毎に、調理担当職員が配置され、買い物から調理まで行っている。旬の食材を工夫した献立で、それぞれの食べやすい形態が用意されている。利用者の中には買物に同行したり、野菜の下準備を手伝う人もいる。職員や階下の医師の希望者も同じ食事を食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居利用者様の状態把握は常にしており、個々の体調や体重なども把握し、対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが必要と思われる入居利用者様は、歯科の口腔ケアをお願いしている		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、一人ひとりの状態・状況に合わせた排泄の支援を行っている	半分弱が自立しており、その他はリハビリパンツ使用。排泄の一連の行為で、できることはしてもらい、失敗してもさりげなく対応している。ケース検討会議では、尿失禁について、羞恥心や本人の更衣のわずらわしさ、水分量等多方面から支援方法を検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医や職員看護師とも話し合い、必要と思われる薬の使用や食事に関しては、食事担当の職員は飲食物に留意し、思考錯誤を行っている		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2～3回の入浴を考え、ご本人にも確認し、体調を考慮しながら行っている	週2～3回、午後入浴が基本であるが本人の希望に柔軟に対応している。2階のデイケアに機械浴があり、必要時は利用できる。入浴の準備から入浴後の水分補給まで、同じ職員が対応し、個々のペースでゆっくり入浴できている。拒否の方には、スタッフやタイミングを代えて声かけする等の工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	常にその日の入居利用者様の状態を考え、休息・就寝の支援を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員看護師により入居利用者様一人ひとりに即した服薬管理を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員全員が入居利用者様の楽しみ事や生活歴を理解しており、出来るだけそのご本人の力が発揮できるような声掛けなどの支援に努めている		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩道を設けず、声掛けし、希望に沿うよう心掛けている。また天気、本人様の状態により、買い物への付き添いなどもして頂いている	屋上に上がって日光浴や外を眺めたり、近所を散歩している。利用者の家まで出かけた後、近くへ買い物に行くこともある。普段行けないところは、家族の協力を求めているが、家族も忙しく実現は難しい。近隣市へ遠足にでかけることもある。	

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人で立替をし、領収書を会計にまわしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居利用中は利用者様の力量によって、行うことを考えている		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間にはさりげなく季節を感じさせるものを掲示している	広いリビングは真ん中に対面式のキッチンがあり、調理の音や匂いが食事の時間を知らせている。利用者に季節感を感じてもらえるよう飾られた、手作りのさくらやこいのぼりも潤いとなっている。ユニットの入り口には職員の顔写真が貼ってある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアは広く、ソファや椅子も多く用意しており、一人一人、思い思いに過ごせるようにしている		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居利用者様の家族や関係者に話を聞き、使い慣れたもの、好みのものを持ってきて頂いている	トイレ、洗面スペースが居室にあり、窓も広く明るい。置き畳の部屋もあり、テレビ、タンス、机、いす等の馴染みの家具等を持ち込みゆったり過ごせる居場所となっている。居室入口に、苗字を大きく書いたり、暖簾を掛けたり、絵を貼ったりして、自室が分かりやすい工夫もされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居利用者様の個別ケアを重要視し、センター方式などを使い、常にその人の力を活かせるよう考えている		